

## 武蔵野市第四期基本構想・長期計画策定委員会（第5回） 会議要録

日 時：平成15年12月16日（火） 午後7時～9時20分

場 所：武蔵野公会堂 第1・2会議室

出席者：東原委員長・小木副委員長・鶴川委員・廣瀬委員  
増山委員・村田委員・古田土委員・永並委員  
企画政策室長・企画調整課長ほか

### 1 開 会

### 2 議 事

#### （1）行政評価について

【事務局】資料1「個別事務事業評価試行結果集」を説明。

【委員長】行政評価に関して、市長は議会もしくは市民に対してどのように説明しているか。

【事務局】行政評価を推進していくと説明している。また、バランスシートと関連させたいと説明している。

#### （2）討議要綱について

【委員長】討議要綱の中の「市政を取り巻く状況の変化」について案を検討する。

（以下委員長をはじめ各委員が指摘した全体的な事項を列記する。）

- ・ コンピュータープログラムなら未定義だとして棄却されるような、市民にはわからない言葉がある。
- ・ 内容が説明不足であったり、主語や修飾語が不適切な部分がある。
- ・ 市が進めてきたことは主体的に表現する。
- ・ 市が取り上げようとする目玉の施策をここに盛り込む。

【委 員】リスクマネジメントと危機管理という表現はしっかり使い分けるべきだ。

【委 員】情報化のメリットとリスクという記述の部分では、もう少しリスク部分についても触れるべきだ。

【委 員】基本的にインターネットというのは、全部情報が外部に漏れる可能性があるシステムになっていると言われている。個人情報には十分な配慮が必要だ。

【委 員】行政サービスを担っている市民とかNPOがあるが、アメリカでは

サービスを担うというよりも、むしろ政策形成にNGOやNPOが参加している。市民等にはサービスを担うだけでなく、政策連携していくということも必要ではないか。

【委員長】自治基本条例の実例はどういうようなところがあるか。

【事務局】北海道のニセコ町や隣の杉並区等。次回資料を提出する。

【委員長】お役所言葉は市民にわかりやすく直してほしい。お年寄りが読んでわかるぐらいぐらいに書けないか。

【委員】どういう課題があって、何のためにこういうことをやったということをもう少し詳しく書いた方がわかりやすい。もっと丁寧に書いた方が良い。

【委員長】優先事業の実績と評価の部分は、第二次調整計画を受けて、これが実績と評価だというので良い。ただ、市民に対するサービスとしては、その背景や前段階の説明をある程度差し込んでいった方がわかりやすい。残りは次回検討する。また、事業計画についても次回以降再度検討する。

### (3) 委員長作成の資料について

【委員長】資料の説明。

1 ページ目が「基礎となる考え方」ということで、長期計画の論点として重要な視点となるものがある。1 つは「持続可能な社会」、2 つ目は「市政と倫理」。

持続可能な社会のサンプルとしては介護・子育てのマンパワーの問題だ。

市政と倫理の中では、「私権と倫理」という問題は、「弱者虐待と企業の外部不経済」というものになる。

また、「高齢者の尊厳」という問題もここで扱わなければいけない。

「受益者負担の公平」という問題は、保育園その他でかなり議論しなければならないであろう。

「安全」、「生活支援サービス」、「生産性の高い市政」、「生涯学習」について、もう一度議論しないとイケない。

「地域の資源と市民の力量」、「情報化」、あとは重点課題として出てくるものが「武蔵境」、「吉祥寺」ということだ。

「安全」という中で我々が考えないとイケないことは、「防犯」、「防災センターと地震対策」、「事故及びテロ」、「感染症」といった問題だ。それから、「食品安全」、「リスクマネジメントの適用」については正面から言わざるを得ない。

「生活支援サービス」では、高齢者施策全体の総点検と評価である。

高齢者施策全体として、さらに「透明性の向上」が必要である。基本的に高齢者施策及び子育てのためのマンパワーが不足している。市民に参加してもらえないとイケない事業であるということをはっきりしている。サービスを市民全体に支持してもらえるかということが重大だ。そのために、まだまだ透明性

を向上しないといけない。

「子育ての支援」ということで、これは市長の問題提起である。

「生産性の高い市政」ということで、「会計分析と市政評価」について検討していく。

庁内の検討で、「アウトカムを重視する」ということが既に浸透してきているので、長期計画でもアウトカムということを重視して事業を見ていきたい。

「生涯学習」ということでは、「団塊世代がこれから地域に戻ってくる」。これに対して受け皿をどうつくっていくのかというときに、学習という視点が必要だ。

高齢者や子育ては、いずれも「人・トゥ・人」とも言える。対人サービスが基本的にネックになりそうである。どうやって武蔵野市が総力を挙げて人員を確保できるか。そのためには「多様な主体とパートナーシップ」が必要である。

「情報化」については、「全体の統制とマネージメント」ということを検討する。「地域の整備」については、例えば吉祥寺の競争力、吉祥寺がどのような性格づけをしていくかというターゲティング、このあたりが重要になる。

「計画策定上の注意」だが、情報公開については、重要ではあるが、長期計画の計画論としてはほぼ決着がついている。

また「バリアフリーの問題」も、策定委員会は前期までに大体の議論は済ませている。こういったものはあまり議論しないで事業計画に載せていく。

「記述上の注意」ということで、市の活動をしっかり紹介するということ。既に市で取り組んでいる活動、例えば安全問題などは市はかなり努力している。地道な努力をしっかりと市民に伝えていくことが、市民に対するサービスの1つである。市民は黙っていてわかるというものではない。

「市民に難解な用語は内容を明示」しようということ。

また議論の余地があるところだが、普通、計画論では片仮名語は避けるという議論が多いが、私の提案は、討議要綱では片仮名語は自由に使っていきたいと考えている。

これがあくまでも私の考えを拾い上げたものである。

【委員】「会計分析と市政評価」では、武蔵野市に実現してほしいと思っている課題があるので、いろいろと提案したい。

【委員長】出してほしい。出てきたものをここで議論して、基本的にまとめれば、これは策定委員会案として提出することになる。

(4) 前回配られた資料の中の市長論文「本音で取り組む子育て施策」と市制施行55周年記念シンポジウム「人口減少時代の豊かさとは？幸福とは？」の報告書について、フリーディスカッションを行う。

【委員】市長が提言している項目が実現できたらすばらしい。内容的には実現が簡単ではないことと、武蔵野市だけでどうにかできるものではないことも含まれているが。

【委員】これは単なる市長の意見か。

【事務局】そうである。中には「地域の中で母子、父子が孤立しないよう」具体的な施策として教育委員会等で既に取り組んでいることもある。

【委員長】子どもをめぐる問題を市長は5つに整理したが、策定委員会としてどう整理するか、何か手がかりをつかみ出すことができないか。これは、当然すぐには出てこないが、ちょっと粘り強く問題提起をしたい。

【委員】子どもを産むとか育てるということは、国全体として非常に重要な問題だと思う。国は子育てについて長期で見て、本気で取り組まないといけませんが、市としても制度的にバックアップすることに本格的に取り組まなくてはならない。まずは基本的な哲学、考え方と、長期的に取り組んでいく姿勢が大事だ。

もう一つキーワードは、「自然」だ。市制施行55周年記念シンポジウム「人口減少時代の豊かさとは？幸福とは？」の中で養老孟司氏の言っていることの中心の1つが「自然」だ。その自然という問題は、武蔵野市も重視してきているが、第四期長期計画の基本的な考え方の根幹とするべきだ。

【委員】幸せというのは社会といかにかかわっているかというところにあるとの指摘は同感だ。また「成熟社会は美しくあるべきだ」との言葉にも共感したので、「町を美しくしましょう」という観点から施策を考えてもいいのではないか。

吉祥寺駅の周辺は、たばこの臭いと吸い殻のごみであふれている。きれいな感じ、美しいという感じがしない。

【委員長】以前の長期計画では、吉祥寺に対してあえて美しい町にすべきだと提言しているが、なかなかうまくいっていない。

【事務局】吉祥寺のグランドデザインについてはこれから検討するが、吉祥寺のキーワードは、「安心・安全・清潔」ということにしている。

【委員】環境とか都市基盤の分野では、なかなか具体的な事業が上がってきにくい。大きな理想的な理念がなかなか記述されにくい部分があるが、「美しいまちづくり」というのは、何も吉祥寺だけに限らず、住宅地においても全く同じことだと思う。基本構想の方に書き込めるのではないか。

【委員】ただ、きれいで安全というだけでなく、もう一方で人間的な温かみみたいなものがまちのイメージとしてあるといいと思う。美しさとは人によっていろいろだと思う。自然の中で美しく、かつメカニクではないようなことも重要ではないか。緑は一つの象徴だ。